

2023年度 第2回森と水の源流館授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 7月8日(土) 10時~12時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン方式
- ◇参加者

現職教員：中澤(郡山西中)、阿部(山形市立千歳小)、新宮(奈良女子高校)、中本(田原本小)、島(大牟田市立吉野小)、谷垣(青翔高校)

学生：奥村、東、芝田、上部

スタッフ：尾上、成瀬、上西、高田

大学：大西、中澤

計16名

◇内容：優良実践事例の紹介

「地域の暮らしをみつめる」：大和郡山市立郡山西中学校総合的な学習の時間 2年生(中澤先生)
生徒数85名 1年間を通じた取り組み

目標：生徒の実態・コミュニケーション力に課題がある

地域の状況 ため池(金魚池)が多い 雨が少なく水不足

身近なマンホールのフタに吉野川分水の文字

校区にある水管理の標識「大迫ダムから88.8キロ」の表示

①事前学習：疑問を持って源流館を訪問する

10個のテーマを教員側で考え、生徒の提示した

源流館との事前打ち合わせのポイント

「答えを言わないでください」

②当日

生徒は展示にも集中 「もっと時間が欲しかった」

スタッフに質問する生徒

水の恵みを生かした地域づくり

③事後学習

郡山西中学校校区の現状を把握しよう

- ・地域の「よさ」と「課題」を出し合う
- ・保護者にもインタビューして現状を把握する
- アンケートの作成・集計・データ作成
- ・時間軸をずらす：地域の現状をクリティカルにとらえるために、お母さん世代への聞き取り調査とおばあさん世代への聞き取り調査

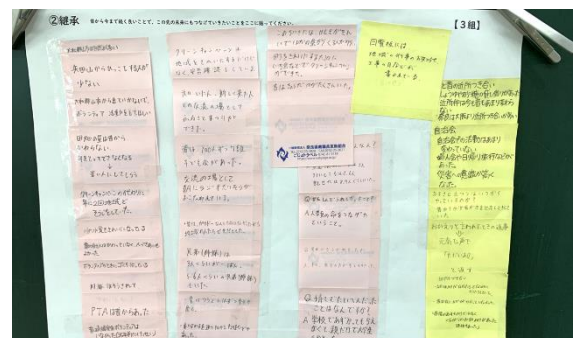
ポストイットを使ってお母さん情報とおばあさん情報を色分けした。貼りながら、カテゴリーを考えていた

◇改善すべき事柄ベスト3

◇継承すべき事柄ベスト3

◇発展させたい事柄ベスト3

④理想の地域デザインを模索する：グループで企画をつくってみる



- ・市役所の総合企画課からアドバイスをいただく
- ・市の総合計画を教わる（協力できることを見出す）

⑤行動化：ボランティア清掃 → 充実感、やりがい

- ・自分事化
- ・地域の当り前をクリティカルに捉えさせる
- ・こうなればいいなあという理想で終わらせない



【成果】

- ・コミュニケーション力は向上・改善
- ・自分からあいさつする
- ・スタッフなどとの出会い 真剣に取り組んでいるーあこがれ → ロールモデル

【意見交流】

①10個のテーマに設営について

- ・10個のテーマは教師側で注目してもらいたいものと考えて提示した。生徒には3つほど選択させた。

②実施しなかった企画書の取り扱い

- ・50周年行事に生かしたい
- ・地域の「ふるさとまつり」の出店にも生かしたい

③企画書作成時へのアドバイスについて

- ・誰が見てもわかるものをつくろう
- ・モデル（様式）があった方がいいだろう

④地域の捉え方

- ・改善・継承・発展は言葉が難しいのでもっと簡単な言葉に
- ・よくなったことも取り上げて、そのための努力に着目させる

⑤川上村と地域をつないだ実践はよかった

企画書の実行ができなかったー授業の計画性が重要

お金の問題があり、子どもだけではできないこともある

全時間数は30時間

⑥ついてこれない生徒への支援について

グループ分けを工夫した（関心が共通している者で集め、対話を通して知識や意欲への好影響）

「わからない」と言える関係づくり

⑦コミュニケーション力だけでなく積極性や行動力も向上した

保護者の協力について 月1回のPTAの話し合い時に依頼した

⑧SDGsとの関連について

テーマを先にもってくると、「テーマのための学習」になりがち。地域の課題から入って探究し、後付けでテーマとの関連に気づかせるという学習でよい

⑨行動化につなげるゲストティーチャーの活用について（新宮先生）

- ・通年で取り組む、GTとの協働体験を計画する、GTとの本音交流に発展できる、GTの営みにふれ、あこがれを喚起する、体験・対話・あこがれ・社会参画

次回は現職教員の単元構想案の相互検討会を行う

谷垣先生・中本先生・近野先生、阿部先生・佐藤先生他